

代表者会議【資料 2－4】

茅ヶ崎市自立支援協議会 報告書

件 名	令和 6 年度 第 1 回 相談支援部会
日 時	令和 6 年 6 月 3 日（月）10:00～12:00
場 所	茅ヶ崎市役所 分庁舎 5 階 D 会議室
事 務 局	ちがさき基幹相談支援センターナル
出 席 者	<p>（委員）</p> <p>■栢沼 玲也 委員（茅ヶ崎市社会福祉協議会 障害者生活支援センター）※部会長</p> <p>■上杉 桂子 委員（茅ヶ崎寒川地区自閉症児・者親の会）※副部会長</p> <p>■岩崎 優佳 委員（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■加藤 郁子 委員（社会福祉法人翔の会 生活相談室とれいん）</p> <p>■鈴木 博太 委員（茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会）</p> <p>■高田 麗 委員（茅ヶ崎市地域包括支援センター社会福祉士部会）</p> <p>□竹内 智洋 委員（社会福祉法人碧 地域生活支援センター元町の家）</p> <p>□棚橋 利恵 委員（社会福祉事業団 相談支援センターつみき）</p> <p>■野口 新平 委員（特定非営利活動法人茅ヶ崎市障害者施設連絡会）</p> <p>■藤本 美佳 委員（神奈川県立茅ヶ崎支援学校）</p> <p>■吉岡 真紀 委員（茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会）</p> <p>（オブザーバー）</p> <p>■柴田 勝一 氏（茅ヶ崎市自立支援協議会代表）</p> <p>■大八木 元 氏（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■大畑 純子 氏（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■渡邊 桃子 氏（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■池元 佑輔 氏（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>（事務局）</p> <p>■瀬川 直人（ちがさき基幹相談支援センターナル）</p> <p>■鐘ヶ江 麻里子（ちがさき基幹相談支援センターナル）</p> <p style="text-align: right;">（■：出席、□：欠席）</p>
議 題	<p>1. 講義「笑顔と活力にあふれみんなで未来を創る相談支援体制とは」</p> <p style="text-align: right;">講師：ふじさわ基幹相談支援センターえぼめいく 所長 吉田 展章 氏</p> <p>2. 意見交換</p> <p style="text-align: right;">茅ヶ崎市における相談支援体制について現状及び課題について</p>
検討内容	<p>1 講義「笑顔と活力にあふれみんなで未来を創る相談支援体制とは」</p> <p style="text-align: right;">講師：ふじさわ基幹相談支援センターえぼめいく 所長 吉田 展章 氏</p> <p>※以下、講義内容より抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい種別に関わらず相談を受ける姿勢は同じという思いで相談支援を行ってきた。 ・障がいの相談は見えづらい。介護保険は制度上理解しやすく敷居も低い。 ・地域で生活しながら困っている人の多くは「障がい」で困っているわけではない。「生活上の問題」で困っている。なので「相談支援」は「生活支援」である。

- ・基幹相談支援センターは、相談支援従事者の後ろ盾、従事者支援のために創設された。
- ・相談の３層構造はそれぞれに役割が違うが、綺麗に棲み分けは出来ない。
- ・全体で「断らない」「ワンストップ」をやっていくことが大切である。

【藤沢市における相談体制整備】

- ・藤沢市では「いつでも誰でも相談できる体制が欲しい」「安心・信頼して相談できる仕組みが必要」ということで、障がい種別ではなく「地区」で事業所を分けようとなった。
- ・中学校区に１３の包括支援センターがあり、障がいの４つの相談事業所を地区割にして対象地区にある包括支援センターとセットで活動できるように分けた。
- ・包括支援センターの会議に出席すると高齢者と障がい者世帯が沢山出てきた。
- ・障がいの相談をどうするかだけではなく、もう一回り大きい視点で検討した方が良い。
- ・相談は待つだけではなく、相談を届けることもイメージ出来ると良い。

２ 意見交換 ※以下、委員皆様のご意見を整理し記載

(1) 「相談」についての理解・周知

- ・「どこに相談できるのかわからない」「相談に繋がったが、相談したいときに相談が出来ない」で分けられる。
- ・相談者が各機関をたらい回しになる実態がまだある。相談を受けた機関が、まずは話を受けとめているかも課題である。
- ・相談支援事業所が浸透していない。また相談支援事業所の数が不足していると継続した課題として残っている。
- ・福祉サービスや相談の利用実績を調査してまとめたが、回答の中で相談利用については空白が多かった。相談を含めて多様な機関が繋がっていけるかが支援の鍵になってくると思っている。
- ・多機関が繋がっている方についてはケース会議などを通してチームで支援が出来ている。生活全般について相談と情報共有して繋がっていくことの大切さを感じている。

(2) 連携・相談体制について

- ・地域性については課題を感じている。移動時間だけで多くの時間が割かれている。福祉相談室があった時には地域から繋いでいただいたケースがあった。
- ・包括支援センターは地区担当制なので地域に密着しニーズキャッチ機能は一番持っている。自治会や民児協、防災関連の団体等、あらゆる団体から相談が入る。
- ・「相談」というところでは障がいも高齢も変わらない。早い段階で一緒に関わり、具体的な動きを連携してもらいたい。ニーズキャッチは包括支援センターが得意なので活用してもらいたい。
- ・茅ヶ崎市も重層的支援体制整備事業が始まっている。障がいや児童の方も相談対象となっているので連携を図りたい。
- ・事業所や相談員一人一人が柔軟に関わっているかが大切。それぞれの役割はあるが柔軟性を持ちながらバトンと一緒に持っていけるかが大切。

(3) 人材確保・育成

- ・障がいの相談は人手不足のイメージがある。一緒に地域に出て初期相談のところを一緒に動けたらと思っている。
- ・しっかりしている親はセルフプランを勧められているという相談を受けたことがある。

代表者会議【資料２－４】

	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員（指定特定）が少なく、計画相談を依頼しても断られ、市でセルフプランで支給決定を受けている人が多い。 ・相談員が不足しているので現状は理解出来るが「いざという時に親身になってくれる人」が必要と思う。 ・茅ヶ崎寒川地区自閉症児・者親の会にも相談が沢山入る。相談員に話を聞いてもらったが困り感が解消されなかったという内容もある。「一緒に行こうか」と共に動くことで解消されることもある。 ・相談先は専門家じゃなくても良い。障がいについての相談は少なく、障がいから派生する相談はあるが、福祉サービスで解決できることは少ない。 <p>3 今後の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽出された課題を再度確認し合い、現状や相談がどうあるべきかの認識を深め、共通理解を深めていく。 ・整理された課題に対して優先順位を検討しながら、解決に向けた検討を行う。 <p>4 その他</p> <p>次回開催：2024年9月9日（月）10：00～ 会場 未定</p>
課題・懸案事項	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援の課題等共通認識を深め、解決すべき課題について優先順位を付けた上で、解決に向けた取組を行う。 ・相談支援体制については障がい領域のみでなく、市内一体となる体制整備を必要とする事が想定されるため、他領域機関の理解・協働することが必要となる。